

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4290101460		
法人名	社会福祉法人 神楽会		
事業所名	グループホーム夕陽が丘		
所在地	長崎市大浜町543番地5		
自己評価作成日	令和3年2月24日	評価結果市町村受理日	令和3年4月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/42/">http://www.kaigokensaku.jp/42/</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内		
訪問調査日	令和3年3月22日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは、「何もしない」事を大切にしながら利用者の方々と生活をしています。「何もしない」とは、ホームや職員が作ったルールに当てはめないという事です。今までの生活習慣や生活のリズムを大切に、9名の方が9通りの生活を送られています。「大家族をつくろう」を理念としており、利用者、家族等、職員が喜怒哀楽を共にしながら、本当の家族のような関係が築けるよう努力しています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは法人理念「大家族をつくろう」の下、利用者が安心して暮らせるよう生活環境を整えている。職員は、9マスメモを活用し、食事形態や薬の服用状況のなど本人本位の暮らし方を把握して個別に支援している。ケアマネジャーは利用者一人ひとりの行動を掘り下げ、職員の意見を聞きながら介護計画に繋げており、支援経過記録から本人の言葉や思いが確認できる。また、オンライン体制を強化し、ビデオ通話や動画送信等でホームでの生活の様子を家族等に伝えており、新型コロナ禍にありながらも家族との信頼関係を深めている。職員の利用者への接し方は穏やかで優しく、畳スペースに腰掛け談笑したり、テーブルを囲み皆で高校野球観戦している様子はさながら大家族である。新調した制服の背にあるコンセプト「1コマすすむ」には、利用者の幸せを願い、より良い支援のための工夫を積み重ねようとの思いも込めており、更なるサポート力アップに取り組んでいるホームである。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	大家族を作ろうの理念のもと、その人らしさ、人とのつながりを大切にする介護方針をつくり、職員は就業前には理念を読み上げ勤務を開始し、理念の実践に取り組んでいる。	職員は、出勤簿にあるチェック表にて理念と介護方針を確認し、職務に赴いている。利用者が人生の先輩であることを念頭に支援に努めている。また、制服の背にあるコンセプト「1コマすすむ」ように、利用者の幸せを願い、より良い支援のための工夫を積み重ねるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入している。 今年度はコロナウイルス感染予防のため、法人からの指示もあり、事業所への来所は控えて頂いた。	自治会に加入し、回覧板にて地域情報を得ており、地域清掃には職員が参加している。管理者交替の際には近隣住宅への挨拶に回ったり、新型コロナ禍前には地域住民のホーム見学も行っていた。ホーム内で行った敬老会には、中学生からの祝いの手紙が届いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会や地域ネットワーク会議にて、介護の相談窓口を設けていることの発信を継続している。 法人内研修でも、認知症に関する研修を行った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の現状を報告行っている。 2ヶ月に1回と定期的開催できている。 今年度はコロナウイルスの影響で、事業所内で職員、利用者で開催。市へは書面での報告を行い、市役所担当者より助言を頂いている。	今年度は2ヶ月に1度、職員による書面会議を実施しており、利用者が参加する回も確認できる。利用者や職員の状況、活動内容や研修内容等議事録に写真を添付し報告し意見を頂いている。ただし、行政担当者からの報告に留まっており、他の会議メンバーへの報告は確認できない。	ホームでは今後オンラインでの運営推進会議開催も検討しており、参加メンバーからの意見要望等をサービス向上に活かす工夫が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業者内での加算になど不明な点での問い合わせ行っている。運営推進会議はコロナウイルスの影響で事務所内のみでの開催となったが、報告書を市へ送り、担当者からの書面での助言も頂いている。	運営上分からないことを問い合わせたり、利用者の情報やホームでの取組みを伝える等、日頃から協力関係を築くよう努めている。新型コロナに関する情報や研修の案内等はメールで届いており、職員はオンラインでの研修に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月本部にて身体拘束廃止委員会開催しており、各部署での報告し身体拘束を行わないケアに努めている。身体拘束に関する指針も作成している。法人内研修でも身体拘束に関する研修を行い、職員会議でも話し合っている。	身体拘束に関する指針とマニュアルを整備している。管理者は、毎月法人内身体拘束廃止委員会での議事内容を職員に伝えている。内部研修でも理解を深めており、帰宅願望者への対応検討や強い口調の言葉掛けには職員同士で注意しあう等、利用者が不快にならないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する研修行っている。 施設での虐待はないが、利用者への言葉遣いに対する指導行っている。職員からも管理者、主任への意見なども聞き入れ対応している。 必要に応じて個人面談も実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修などを開き、職員間でも学ぶ機会が必要であると感じた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は疑問、不安に思っている点を確認行い、契約行っている。加算に関する同意も、書面にて確認、同意捺印頂いている。契約に関する疑問点なども現時点で問い合わせない。オンライン面会についての、個人情報の管理に関する同意書も家族より頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からの意見要望は、朝の申し送りやSNSを利用し情報共有に努めている。家族意見に関しては職員、管理者、本部にて検討し必ず意見を反映させる仕組み作りが出来ている。家族とのSNSも開始しており、良い関係が築けている。	重要事項説明書にて、苦情相談の受付体制を説明し、玄関に意見箱を設置している。ホームは家族毎にSNSを開設し、利用者の様子を伝えながら意見や要望を尋ねている。家族訪問時も、職員から声を掛け、家族が話しやすい雰囲気づくりに心がけている。家族の意見や要望は、法人とも情報共有し、サービス向上に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員ミーティングを毎月1回開催し、職員全体で意見交換行っている。 職員の意見が通りやすい職場になっていると思う。参加できない職員に対しては、事前に意見を聞き、反映されるように対応している。	職員ミーティングに限らず、日常的に職員は意見や提案している。法人代表は、日頃からホームを訪れ、直接職員の話聞く機会を設けている。利用者支援に関する備品購入の他、業務内容の見直し、シフトなど職員の意見を反映している。ホームでは職員家族も重要視し、法人全体で希望休を取りやすい体制づくりに取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本部の代表者と管理者による話し合いを月1回行っている。職員の意見を尊重している。希望休なども全て対応できている。職員の家族との時間を一番に考えており、有給休暇の所得も問題なく行えた。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度より職員の力量を把握するため、キャリアパス制度を実施。管理者、課長、常務、理事長とチェックし、第三者が職員の苦手な部分を見つけ指導できる環境作りに取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に所属しており、同業者と交流する機会を作っている。コロナウイルス感染対策のため、研修への参加は見送った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始までの間に、必ず本人や家族と面会し困っていること、不安なこと、要望等を本人の要望を聞く様に努めている。、本人の安心を確保する関係づくりを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に緊急時の対応を含む、確実に連絡がつく時間帯などの確認を行っている。SNSの利用により話しやすい、相談しやすい環境ができています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の時点で、グループホーム利用が適切でない場合や満床の場合は、法人内の各事業所などに連絡相談を行い入居可能なサービス、入居の提案を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「大家族をつくろう」を理念としており、暮らしを共にする者同士として利用者、スタッフで喜怒哀楽を共にし支えあう関係を築けるよう常に努めている。利用者に可能な洗濯量みのような家事も、手伝って頂いている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	「大家族をつくろう」という理念のもと、本人と家族、職員も含めた絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築けるよう常に努めている。家族が県外在住の、看取り利用者に関しては、家族の希望もあり毎日のようにテレビ電話を使い会話をしてもらい、状態報告も行った。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者が入居前からの利用している、馴染みの病院を継続して受診してもらっている。職員から普段の様子を伝え、受診の際に役立ててもらっている。受診の際は家族との時間も作れ利用者、家族も喜ばれている。	利用者の生活歴は、本人や家族から聞き取り、フェイスシートにまとめ、職員間で情報共有している。今年度は新型コロナ禍にあり、家族や知人の面会を制限しているものの、オンライン活用や窓越での面会など、馴染みの関係が途切れないよう工夫している。馴染みの場所への支援は、病院受診時に家族の協力を得て実施している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が好きな席に座ってもらうことが多い。特別に座る席など決めておらず、本人が好きな場所で食事をしてもらっている。談笑からそのまま一緒に食事をするという場面もあり。利用者が孤立するような場面もない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今年度は3名の看取りを行った。家族からも「大変良くして頂いて良かった。この施設に入って本当に良かった。」との言葉を頂いている。コロナウイルスの影響で葬儀への参加は出来なかったが、コロナウイルス落ち着いた際に、お礼を直接伝えたいと、亡くなられた家族の来所予定している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	行事やレクリエーションなどの、強制的な参加は行っていない。利用者自身が参加したい時のみ、参加して頂いている。 行事の写真も家族にSNSで配布しており、大変喜ばれている。	職員は、利用者との会話する機会を大切にしている。夜勤や入浴、居室での支援の他、日常生活のあらゆる場面で、利用者の思いに寄り添っている。職員はキーワードを共有し、利用者の混乱を招かないよう統一した言葉掛けに努めている。日中の過ごし方や趣味の活動、読書など個別の意向を暮らしに反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始前に家族や本人と面談行い出身地、好きな物、本人が望むことの確認を行っている。書類を作成し、入居前に職員全員が周知できる環境作りを行っている。 経過支援記録にも、本人との会話の中で分かったことを記載し、ケアに役立てている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	「大家族をつくろう」という理念のもと、利用者との信頼関係を築きながら、現状把握に努め、現状情報は経過支援記録、申し送りやノートで職員全員が共有できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会中止の期間が長く電話やSNSを利用し、職員により現状報告を行っている。意見を頂き、本人を含めての課題やケアの見直しを行う。職員での話し合い、申し送りノート等を活用し、職員会議や申し送りにて検討内容を話し合い介護計画へ反映している。	長期12ヶ月短期6ヶ月の介護計画を立てている。毎月のモニタリングとカンファレンスにて職員に意見を聞いており、オンラインを活用し家族からの要望等も見直しに活かしている。書式変更した支援経過記録には、利用者の発言や思いを記録しており、職員が本人の現状に必要なケアと実践状況を把握しやすくなっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用経過記録の書式変更行った。 利用者1人につき1日1枚と枚数多くなったが、利用者の1日の様子や状態などを、見やすくまとめることが出来た。記録を見直す際に大いに活用できている。気づいた事をすぐ記入できており、職員の意識も変わってきている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員会議や申し送りの際に、その方に必要な福祉用具、物品の検討を行っている。本人が必要な物を家族に相談し、金額を伝え了承を頂いた後に導入するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握に努め、安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望する医療を提供行っている。毎日かかりつけ医に、医療連携にてFAXしており、医療的な支持をもらっている。入居前より受診している、かかりつけ医を受診してもらい、利用者や家族が不安のない環境を作っている。	かかりつけ医を継続受診しており、受診には家族が付き添っている。協力医である外科、歯科、皮膚科の往診があり、毎朝利用者の健康状態を主治医に報告するケースもある。受診結果は電話で家族に伝え、職員間で共有している。週1回法人内看護師による状態確認を行い、職員は緊急時の対応を理解し、支援に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	他事業所の看護師に依頼している。看護師にすぐ相談できる環境になり、職員の負担も軽減している。週に1回看護師による利用者の状態確認行っており、支援経過記録への記入も行っている。かかりつけ医の往診も看護師が対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には問い合わせを行い本人に状況確認行っている。退院時も不安な事あればすぐに問合せを行い、かかりつけ医にも相談行っている。入院時には必ず家族にも同席してもらい、家族、職員共に不安がないよう心掛けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	コロナウイルスの影響から、家族面談は担当医より中止指示となった。家族への連絡はかかりつけ医が担当し、施設に訪問看護による点滴などの指示が出ることが多かった。訪問看護とも連携し、かかりつけ医への迅速な相談へとつながった。	重度化した場合における対応と看取りケアの指針を基に入居時に家族に説明し、本人・家族の考えを事前確認書で確認している。看取りの実例があり、新型コロナ禍での対応として、主治医が家族に直接看取りケアへの移行を説明している。本人が寂しくないよう音楽を流したり家族の手紙や写真で飾り、家族と共に最期を看取っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時などのマニュアル作成行っており、連絡手順など記載している。どの職員でも対応できるよう工夫を行っている。各医療機関や家族の緊急連絡先も掲示しており、緊急時は誰でもすぐに対応できる体制ができている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	今年度はコロナウイルスの影響で消防立合いでの訓練は自粛した。避難訓練は毎月行っている。	新型コロナ禍により消防署立合いの訓練はないものの、毎月消防訓練を実施している。昼夜想定での初期消火、通報、避難訓練の他、台風による停電の経験から停電時の避難訓練を行っている。他事業所からの応援職員の訓練参加もあり、緊急連絡網も実際に回している。訓練後には反省点を出し合い次の訓練に活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応に関しては、すぐに注意指導を行っている。必要に応じて課長、管理者も含め当事者に聞き取り面談も行った。その後は言葉遣いに対する、職員の意識が変わってきている。毎月の職員会議でも不適切な事がないか検討している。	職員は、利用者の尊厳を重視した暮らしを支えることを理解しており、必ず声を掛けてから介助を行い、本人のプライドを損ねない支援を心掛けている様子が窺える。個人情報に関わる書類は所定の場所にて管理し、職員は守秘義務を理解し記録や情報共有を行っている。また、家族に写真掲載やSNS利用の同意書を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の要望など聞く際は、自室又は事務所内などで行うようにプライバシーに配慮している。耳が聞こえづらい方に対しては、筆談などで対応した。必要な際は家族にも協力してもらい、問題解決に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員が作った決まりはない。利用者それぞれが好きな事を行い、好きな時間に自室やリビングにて休まれている。行事も定期的で開催しており、すべての利用者が参加している。SNSにて家族に写真を送付、大変好評である。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	コロナウイルスのため2ヶ月に1回の実施はできなかった。全利用者対象に、散髪サービスを無償にて行っている。座位難しい場合は、ベッド上でサービス提供を行った。外出の際に、美容室で毛染めをされる利用者もいた。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	「洗いましょうか？」と食器を洗って下さる利用者がおられる。食器も陶器を使用し、目でも楽しめるように工夫している。元旦はおせち、赤飯を提供し大変喜ばれていた。	配食業者を活用し、栄養管理を行っている。利用者の嗜好を把握し、業者へ味付けや献立の要望を出している。利用者の嚥下や咀嚼に合わせ盛付けている。利用者の希望で、日曜の朝はパン食となっている。お節など季節行事に合わせた献立や誕生日にはケーキ等、食事を楽しむ工夫に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	支援経過記録に食事量、水分量を記入できるようにしている。 かかりつけ医から指示が出た利用者には、グラム単位で食事量の記録を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1日に2回、口腔ケアを行っている。訪問歯科による指導なども実施。 必要に応じて訪問歯科による嚥下評価も行い、食事形態の変更の助言をもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄時間と量を表へ記録している。利用者の能力や状態、排泄パターン、習慣を把握して、排泄の自立へむけた支援を行っている。	職員は、利用者の排泄状況を排泄チェック表に記録し、介助が必要な場合、時間や仕草を見て、トイレに誘導している。利用者の立位の状況に応じ、2人体制で介助しトイレでの座位による排泄を支援している。本人に合った適切な大きさのパッド類や使い方を検討し、快適に過ごせるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	かかりつけ医に相談し内服薬、漢方薬を使用することあり。出来るだけ自然排便して頂く様に心掛け、運動や水分摂取のお願いしている。職員会議でも話し合いを行い、必要に応じて水分量の記録を行っている。湯呑に大まかな水分量の数値のテープをはり、水分摂取量もすぐに把握できるよう工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日設定している。入浴が難しい利用者については、清拭にて対応。自立された利用者が増えてきており、入浴もスムーズに行えている。	ホームでは、入浴日を設定し、週2回を目安に入浴支援を行っている。利用者の体調に応じ、シャワー浴も活用している。2人体制で介助を必要とする場合もある他、入浴拒否がある場合には無理強いせず別日に変更している。利用者は、浴槽に浸かり寛ぎ、職員と会話するなど、入浴時間が楽しくなるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休みたい時に、自室や和室で横になり過ごされている。ターミナルの利用者については、家族からの写真や手紙を自室に掲示し、好きな音楽を聞いて頂くことも行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬情報を利用者別にファイル整理しており、職員それぞれが効用や副作用等を確認するようにしている。薬の変更情報は、往診記録、申し送りにて職員全員が確認するようにしている。配薬時も職員同士でダブルチェックを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の能力に合った役割分担をしている。嗜好傾向や楽しみごとを把握し、その人らしい生活を過ごせるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルスのため外出支援は自粛した。面会の制限などもあったが、タブレット端末使用し、オンライン面会を実施している。	今年度は、新型コロナウイルス感染予防の観点から、行事としての外出支援は自粛している。家族に病院受診の外出時に本人との外食等、依頼している。利用者の希望や不穏時には敷地内を散歩している。ただし、全体として外出や外気浴の機会が少ない。	新型コロナウイルス感染予防や安全対策など危機管理の重要性はあるが、外気に触れることで人間の活力を引き出す支援も必要である。ホーム敷地を有効活用する等、取組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失等のトラブルの原因となるため、金銭の所持は許可していないが、必要物品や嗜好品の購入には制限を設けていない。購入はホームにて立替払いを行い、後日、利用料金と共に請求している。購入の前に、家族等に了解をとる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される時に支援行っている。 電話を掛けたい利用者については、時間の制限も行っておらず、家族にも電話の了承頂いている。テレビ電話を使ったオンライン面会も多用している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには大きな窓があり、窓の外には庭や自然の草木見える。建物の向きを工夫して直射日光は午前中の限られた時間にしか入らず、不快な光が入らないようにしている。車道より高台に建物があるため、車の騒音も気にならない。	リビングは自然光が明るく、毎月職員の手描きによる掲示物がホーム内の温かい雰囲気を表している。利用者は畳スペースに腰掛け談笑したり、テーブルを囲み皆で高校野球観戦しており、穏やかな生活の様子が垣間見える。職員による定期的な清掃と室温管理により、快適な空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの隣に和室を設置する等、利用者が自由に使える共有空間を確保している。 時間を気にせず、談笑される方もいる。 和室で職員とピアノを弾いて歌われる場面もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使い慣れた家具など、危険物以外の持ち込みには制限を設けていない。居室では居心地よく過ごしていただけるよう支援を行っている。 必要に応じて、福祉用具の導入も行っている。	本人が使い慣れたもの、好みのものの持ち込みに制限はなく、家具や仏壇、テレビやラジオ等自由に配置しており、本人自身が引き出しの中が分かるよう目印を貼っている。職員は定期的に居室の清掃とシーツ交換を行い、加湿器を設置し空調管理を行っており、居心地よく過ごせるよう努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	何がどこに入っているかすぐにわかるように、タンスにテープを貼っている。転倒リスクを軽減するため、動線の見直しなども、職員会議で話し合い行い改善している。		